

しょうがいしゃ

ちいき せいかつ しょうほうし



「障害者」の地域生活情報誌

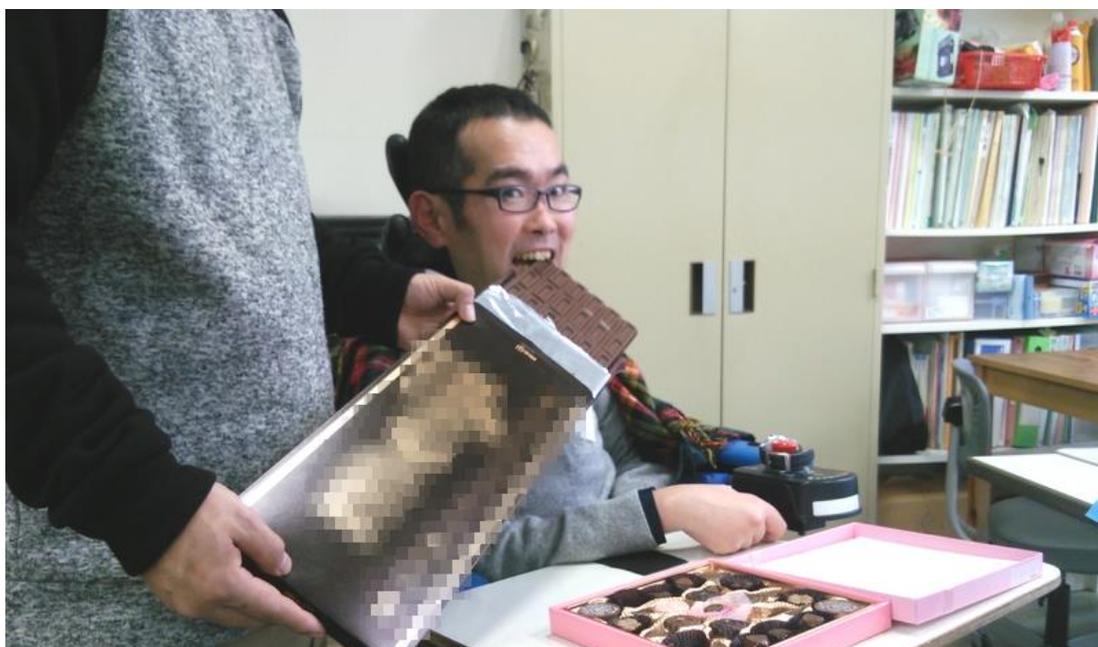
Vol. 30

ぶるーむ.com

2016.2

ふゆごう
冬号

じぶん せいかつたの
～ 自分の生活楽しんでますか？ ～ ハッピーバレンタイン♪



CONTENTS

P2 公共交通機関交渉

P4 Oh-Life!! 第13回

P6 日々平凡

P7 ぶるーむ活動報告

◆「ぶるーむ」の由来◆

英語のbloomをひらがな表記したものです。
bloomには、「(花が)咲く」「(才能・事業などが)花開く」などの意味があります。この北九州の地で、自立生活の土壌をあらためておこすことから始め、それぞれの自立生活の種を植え、色とりどりの自立生活の花が咲きほこるという願いをこめました。

JR九州 朽網駅一部無人化問題 さらに交渉継続中

たなか ゆうへい
田中 雄平

前号でもご報告した JR朽網駅の早朝夜間無人化問題。12月22日、北九州市の都市交通の部署の方に来所いただき、経緯と現状を共有していただきました。

朽網駅は北九州空港の玄関駅であり、無人化は空港の便利さにも少なからず影響を及ぼします。また駅のバリアフリー化に市は補助金を出しているため、その点でも、市としてJR九州に対応の改善を働きかけたいとのことでした。

都市交通の部署の方が帰られた後、引き続きJR九州との4回目の話し合いを持ちました。結論からいうと、JR九州の回答は、前回と変わらず、「駅員のいない時間帯は駅員がいる隣接の下曾根駅をご利用ください。」というものでした。

すなわち、朽網駅に駅員の再配置は出来ない、代替りの措置として、車掌・運転士によるスロープ設置も、時間どおりの電車運行に支障が出る恐れがあるから出来ないとの一点張りで、話し合いは平行線のまま終わりました。

4月に施行される障害者差別解消法（以下、「差別解消法」といいます。）に基づいて示された国土交通省の対応指針（国土交通省所管事業における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針）によりますと、正当な理由があるため不当な差別的取扱いにあたらないと考えられる事例として、「車いす等を使用して列車に乗車する場合、段差が存在し、係員が補助を行っても上下移動が困難等の理由により、利用可能駅・利用可能列車・利用可能時間等の必要最小限の利用条件を示す。」が挙げられています。

「無人駅の利用希望を受けたときに駅員のいる隣接駅利用を案内することは、この規定に該当するから、不当な差別的取扱いにはあたらない。」とするのがJR九州の言い分です。

しかし、隣接駅利用を案内することが、本当に「必要最小限」の利用条件と言えるのでしょうか。結局は解釈の問題ですが、とても疑問です。この対応ではほとんどの障害者(車いすユーザー)が、鉄道利用を諦めるでしょう。乗客を目的地の最寄駅まで運ぶことが鉄道の役目なのですから。

話し合い中は冷静を保つよう努めましたが、今になって、むなしさと悔しさが込み上げてきます。

国連の障害者権利条約(以下、「条約」といいます。)は、心身の機能だけでなく、社会の側にある様々なルール(障壁)が障害者を障害者に行っていると言っています。そして、これまで社会発展の恩恵の外に追いやられてきた障害者(注1)が障害のない人たちと同じスタートラインに立てるように、社会に対して合理的配慮の提供を求めています。

この条約を受けて作られたのが差別解消法です。安易にスロープ設置を拒む JR九州の対応は、差別解消法が出来たいきさつを無視していますし、この対応が認められるなら、障害者はいつまでたっても一人前の人間にはなれません。

差別解消法には、大臣が「事業者に対し、報告を求め、又は助言、指導若しくは勧告をすることができる。」という規定があるので(12条)、ぶるーむは、全国の自立生活センターと連携して国土交通省にも働きかけていきます。また、鉄道駅の無人化は九州全体の問題ですから、九州の自立生活センターとも協力していきたいと思えます。

(了)

(注1) 公共交通機関のほとんどは、長い間、障害者の利用を想定しないで整備されてきました。

Oh-Life

だい かい せんそう こうへん 第13回 ライフは戦争!? 後編

ライブが始まると、みんな曲に合わせて飛んだり跳ねたりするので、状況はさらに絶望的なものとなる。はっきり言ってもう完全に詰みである。だが、僕もこのライブのために(交通費+チケット代)×2を払っているの、そう簡単に諦めるわけにはいかない。そこで僕は、車いすの背もたれの上に座って自分の座高を最大限まで高めるといふ強行手段を使うことにした。車いすの業者や福祉好きの人がみれば、マジギレしそうな光景だったろう。結果は上々で、どうにかステージ上のアーティストを見ることができた。一発逆転とまではいかないが、最初の状況を考えれば、我ながら劇的な展開だったと思う(笑)

ところで、経験を積んでいく上で1回目よりも2回目の方が大変というのは、とても不思議なことではないだろうか?これは僕だけなのかもしれないのだが、イベントに参加する時や人と接する時に、1回目よりも2回目の方が大変なことが多い。1回目のままで良いのに、2回目の時は、変にいろいろ考えられてしまい、余計に面倒くさくなるのである。昔、「障害について詳しい人や興味のある人よりも、何も障害について知らない人や興味の無い人の方が、接しやすいのではないか?」と考えていた。それは、なまじ知識や興味があるが故に、ちょっとした決めつけや、障害について変に深く考える人が多い気がするからである。

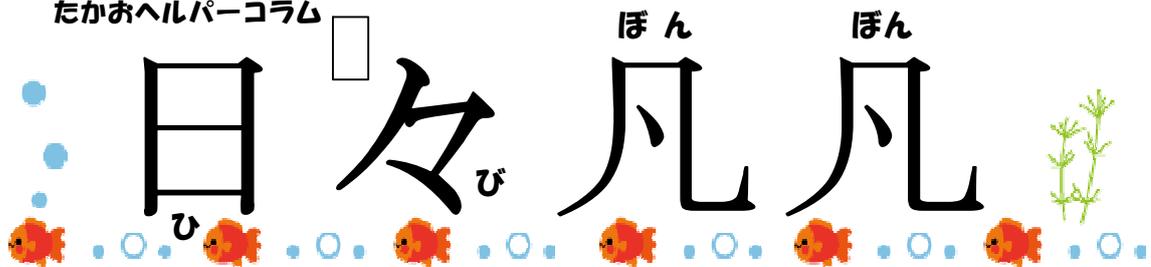
確かに、何度か障害者と接していれば、いろいろ考えてしまうこともあるかもしれないが、全ての物事をそこまで難しく考える必要はないと思う。(あくまで主観です)今回は、「安全・防災のため」と言われて2階席を断られたが、ライブの主催者側には、お客に安全に楽しんで帰ってもらうという責任があるので、神経質になるのも仕方ないことなのかもしれない。「本当に安全や防災に繋がるの?気にしすぎじゃないの?」とぶっちゃけ思わなくもないが、そもそも安全・防災対策とはそういうものだろう。まあ、複雑だが・・・。

少し話は脱線したが、話を元に戻すとして。なんとか状況を打開した僕であったが、このまま楽しくライブを終える・・・とはならなかった。車いすの背もたれは、長く座っても負担にならないよう柔らかめに作られている。当然、背もたれに人が座るようにはできてない。この当時の僕の状況を例えるなら、バランスボールに乗りながらペンライトを振っているようなものである。介助者に後ろから支えてもらっては、いえ、僕の身体への負担はかなり大きい。僕はこのライブに訓練に来たのだろうか？

加えて僕の周りには、縦にも横にも大きい人たちが大勢いて、僕はその人たちに埋もれるような状態になっていた。ライブも中盤にあたると、僕の周りの人たちからの熱気が激しくなってきた。軽い酸欠状態に襲われる。口と鼻でめいっぱい空気を吸っても、何も肺に入っていない感覚はなかなか貴重な経験だろう。この後も、横の人の肘が僕の顔面に入ったり、僕の振ったペンライトが勢い余って前の人に直撃したり、アニソン系のライブとは思えないハードな時間を過ごした。

これは続報（1月14日時点）なのだが、今回の話ででたアーティストがまた福岡でライブをすることになったのだが、今回の会場はライブハウスから普通のホールに変更になっていた。流石に運営側も、車いすの背もたれに座ってライブを見つめるという曲芸を見て、いろいろ焦ったのだろうか？ 次から障害者の入場お断りとかになってなければ良いのだが・・・（笑）

一時はどうなることかと思っただが、なんだかんだで楽しいライブだった。そういえば、アニソンのライブといえば、思いっきりペンライトを振るのが定番なのだが、最近のライブでは満足に振れていなかった。まあこの後、今までの鬱憤を晴らす機会が訪れるのだが、それはまた別のお話・・・。



みなさんご無沙汰しておりました。明けましておめでとうございます。
私事ですが、昨年さくねんに家族が一人増えて我が家もにぎやかさを増しました。今では上
の息子は普通に会話ができるようになりました。子供の成長の早さに驚くばかりです。
子供の成長の早さに戦いくさきつつも、わが子が中学生、高校生、社会人になった時のこ
とを想像します。どんな大人になるのでしょうか。いつぐらいに喧嘩をして、いつぐら
いに悪態をつくのか楽しみです。

そこで最近考えることは、彼、彼女がちゃんと自立できるか。そんなことを考えま
す。自分の力で生活しようと、どうやったら子供が家から出たくなるのか。自分はな
ぜ家を出ようと思ったのか。家を出ていかなければどうなるのか。

まず成長するにしたがって、子供が居にくい場所にしないといけないかなと漠然と
感じます。大人でも居心地いい場所からはなかなか動けませんし、子供なら尚更だと思
います。親としては一緒にいられるなら、なるべく多くの時間を一緒にいたいと思うの
が心情ですが、一人の人間として社会に出ていける強さをもってもらいたいと感じま
す。

これは障害があってもなくても同じではないでしょうか。もちろん自立しにくい
環境があるし、社会もまだまだ障害当事者の自立に関して懐疑的であるのは間違いな
いのですが、自分になにかあっても生きていける強さを子供にもってほしいという気持
ちは変わらないはず。一人の人間を自立させる難しさ。その過程で自分の気持ち
と違う行動しないといけないし、家の中の空気も悪くなるし、きついことが多そうデ
すね。子供を育てる過程で親のありがたさを感じます。

障害当事者の自立が難しい社会ですが、一人の人間として社会に参加し、地域で普通
に生活ができるように、より運動をおこなっていかなければなりません。そして障害を
もっていても対等に、平等に生活できる社会にしていかなければならないのでしょ
う。

かつどう ほうこく
活動報告

へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ
平成27年8月~平成27年10月

がつ
8月



JRカスタマーサポート研修⑥

しものせきぎやくたいけんしょうしゅうかい
8.8下関虐待検証集会

りじかい
理事会

けんしゅう
ヘルパー研修⑥A

JRカスタマーサポート研修⑦

がつ
10月



イオンレシートキャンペーン贈呈式

ピアカウンセリング講演会 in 佐賀

JRカスタマーサポート研修⑨

ピアカウンセリング講演会 in 長崎

がつ
9月



JRカスタマーサポート研修⑧

にしてつこうそく こうしょう
西鉄高速バス交渉

イオンレシートキャンペーン

しんたいしょうがいしゃそうだんいんけんしゅう
身体障害者相談員研修

すいしんきょうこくらけんしゅう
推進協小倉研修

けんしゅう
ヘルパー研修⑥B

しゅうちゅうこうざ みやざき
ピアカウンセリング集中講座 in 宮崎

りんじりじかい
臨時理事会

さべつかいしょうほうれんらくかいぎ
差別解消法連絡会議

そうかいほうこく
総会報告

さくねん がつ にち ど きたきゅうしゅう
昨年12月19日(土)、北九州まなびとESDス
テーションにて第8回通常総会を行いました。お忙
しい中、10人の会員の方が出席してくださいまし
た。(評決委任者21名)

しわざ いそが じぎ しゅっせき みなさま
師走の忙しい時期に出席して下さった皆様、あ
りがとうございます!!

たいしょく ともな たかくらまさかず り たいにん
退職に伴い、高倉正和理事が退任いたしました。

たかくら り じ せつりつとうしよ こんき
高倉理事はぶるーむ設立当初より今期まで、ぶるー
むの理事として尽力していただきました。本当にあり
がとうございました。

へん しゅう こう き
編集後記

あ 明けましておめでとうございます。今年も「ぶるーむ.com」をよろしくお願ひします。
 しょうがつ い が い あわただ ことし いちどしょうがつ わらい
 正月って意外と慌しいですね。もう一度正月をまったりしたいです(笑) 【KⅡ】

■ **ロゴについて** ■



この3つが繋がったチューリップには、3J = 「自己選択」「自己決定」「自己責任」の意味と、この北九州の地で自分らしい、いきいきとした花を咲き誇らせてほしい・・・という願ひがこめられています。

■ **会員募集** ■

自立生活センターの最大の特徴は、運営や各種サービスを「障害者」自らが中心となっていて行っていることです。これは、「障害者」にとって何が必要かということを一歩知っているのは「障害者」自身であると考えるからです。

「自立生活センターぶるーむ」はこの考えのもと、2007年10月に産声をあげました。当団体の活動は、皆さまからのご寄付と会費により支えられています。

ご支援とご協力をお願い致します。

会 員 種 別	年 会 費
正会員 当法人の目的に賛同し、法人の活動に責任を持って参加していただける個人の方。	3,000円
賛助会員 当法人の事業を資金面などで賛助していただける個人及び団体の方。	5,000円

【銀行振込】 銀行名：西日本シティ銀行 室町支店
 口座名義：特定非営利活動法人 自立生活センターぶるーむ 理事 田中雄平
 口座番号：1694039

編集人 連絡先
 NPO法人 自立生活センターぶるーむ
 〒803-0818
 福岡県北九州市小倉北区豎町2-1-5 豎町ビル1F
 TEL 093-562-5431
 FAX 093-583-3257
 E-Mail cil-bloom@nifty.com
 URL <http://homepage3.nifty.com/cil-bloom/>
 定価 100円